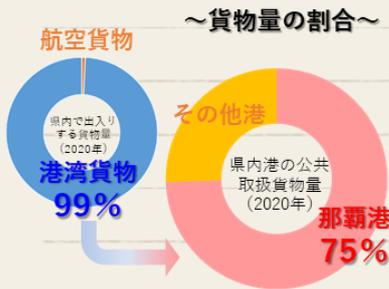




- 那覇港管理組合の仕事紹介
- 那覇港長期構想について
- 職員からの Message

仕事の紹介



15世紀頃、那覇港は琉球王朝時代の表玄関口として、中国を始めとする東アジアの一大貿易港へと発展していきました。

現在においても、この構図は変わらず、生活物資や経済活動に必要な物資の約99%を港湾が担い、中でも那覇港は、沖縄県内港の公共取扱貨物の約75%を占める重要な物流拠点となっています(左図参照)。

また、周辺離島を支える生活航路の拠点、クルーズ観光等の観光交流拠点としても、重要な役割を担っています。

那覇港管理組合は、その重要な那覇港の港湾管理者として、那覇港の開発・管理運営から将来計画の策定、就航船舶の入出港手続き対応など、多岐にわたる業務を通して、那覇港の持続的な発展を支えています。



1422年頃的那覇港の絵図



現在の那覇港(新港心頭地区)



那覇クルーズターミナル

新たなクルーズ船用岸壁(新港心頭地区)



県民・観光客の憩いの場である波之上ビーチも那覇港管理組合が管理しています。



那覇港長期構想について

那覇港管理組合では、那覇港の更なる発展のため、令和4年4月に、約20年～30年先の那覇港の将来ビジョンを策定しました。将来にわたる沖縄県全域の持続可能な発展の推進力となる「みなとづくり」を進めていきます。

<基本理念>

舟楫をもって万国の津梁となす、
世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”



◆ 那覇港長期構想



<https://nahaport.jp/news/1651113535/>

◆ 那覇港HP



<https://nahaport.jp/>

◆ 那覇港の歴史



<https://nahaport.jp/introduction/history/>

◆ 那覇港の現況



<https://nahaport.jp/introduction/genkyo/>

Message



私の所属する計画建設課では、那覇港の将来計画、それを踏まえた港湾の開発等の業務を行っております。

業務に携わる中で、日々の豊かな暮らしを支えている一因に「港湾」があることに気がつきます。

「みなとの元気なくして沖縄の成長なし!」の下、県民の生活を下支える港湾行政に、みなさんも携わってみませんか?

那覇港管理組合 企画建設部
計画建設課 計画班

久高 隆太郎(嘉手納高校/琉球大学卒)